

はつめいたぶせ

田布施町少年少女発明クラブ
令和7年3月21日号
発明クラブ事務局発行

◎令和6年度の活動が終わりました～お世話になりました～

発明クラブの今年度の活動も、先日の閉講式をもって無事終了することができました。保護者、発明協会、後援会等関係各位、指導員の皆さまの物心両面に渡って多大なるご支援をいただき、誠に有難うございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



【令和6年度閉講式】令和7年3月15日(土)10:00～

◎指導員表彰

・当クラブ高橋会長の長年に渡る指導に対して、全国発明協会より指導員表彰として感謝状と記念品が贈られ、披露されました。

◎修了証授与

・本年度修了者11名1人ひとりに、高橋会長より修了証が手渡されました。



◎会長あいさつ（高橋 茂樹 発明クラブ会長）

「少子高齢化や科学技術の発展に伴い、社会や産業の構造が変化している中、これからの日本はものづくりの作業だけでなく、設計やアイデアを提供すること、海外の方々との接し方など人とのよい関係を作ることが大切になると思います。話題になっている人工知能のAIも、人間側がしっかりとないと間違っただけはたらしきをするかもしれない。そのためにも、みなさんには教室での学びに加えて音楽やスポーツ、ダンスなど様々なことにチャレンジして品格と知性を身につけた大人になってもらいたいと思います。」



◎来賓祝辞

◇鳥枝 浩二 教育長様



「まずは、高橋会長さんの多年にわたるご指導に対する表彰、おめでとうございます。また、今年度も多方面より多くのご支援をいただき、感謝しております。クラブ員のみなさんは作品製作などに精力的に取り組み、一年間活発に活動したと思います。生活の中には疑問点やアイデア、工夫につながるヒントが沢山あります。成長する中で、その疑問を生かし、アイデアや工夫を形にする力を身につけてほしいと思います。そして、このクラブ活動で学んだことを今後の生活にぜひ生かしてほしいと思います。」

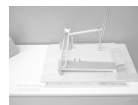
◇城 英明 後援会長様



「一年間の活動が充実していたことが、展示作品から感じられました。思い描いたものを形にするには、試行錯誤がつきものです。スムーズに進むこともよいが、失敗もまた大切な経験です。平成7年の発足以来、30年もの歴史を持つクラブ活動は素晴らしく、発足当初のクラブ員はもう30～40代、社会の中で活躍していることでしょう。日本のものづくりはデジタル化が進んでいるが、アナログ的なもの、手で作ることなど、ものづくりの基本は時代を超えて大切にしたいものです。みなさんも、ここで学び、身につけたことは学校を卒業し、社会人になってもきっと役立つと思います。これからもがんばってください。」

◎令和6年度活動概要（事務局）

- 【4・5月】基本工作「ペン立てづくり」
- 【5～9月】アイデア作品づくり（やまぐち発明くふう展）
- 【10月】応用工作「オリジナル時計づくり」
- 【11月】田布施中学校講座「空飛ぶおもちゃづくり」
- 【12月】第12回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト出場
- 【1～2月】田布施農工高等学校講座「マイコンイライラ棒の製作」



◎1年間のまとめ（高橋会長）

・今年度の活動のまとめを、プレゼンテーションを交えて報告されました。

◎クラブ員活動報告

・クラブ員1人ひとりが、それぞれ心に残った活動を発表しました。

◎クラブ員代表のことば（田布施西小学校6年 松村拓磨さん）

「4年間の活動の中で、失敗や悩むこともあったけれど、先生方や先輩方の支えで様々な作品を作らせていただき、感謝しています。ここで学んだことを今後の生活に生かしていきたいです。ありがとうございました。」

最後に、クラブ員全員で、指導員の先生方にあいさつをして終了しました。

○会場後方には、今年度の活動で作った作品を展示しました。



発明クラブの活動に関するご連絡、お問い合わせは、事務局まで【社会教育課：52-5813(担当:角田)】